

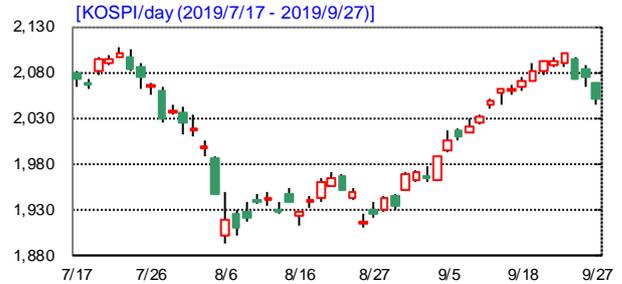


【韓国】 総合指数は 2.0%安と 6 週ぶりに反落、トランプ米大統領発言を嫌気

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 2.0%安と 6 週間ぶりに反落した。週明け 23 日から連騰し、24 日終値は 7 月 23 日以来ほぼ 2 カ月ぶりに心理的節目の 2100 ポイントを回復したが、週後半に一転して売りに押される展開となった。米中貿易摩擦の激化懸念が強まり、25-27 日は継続的に下値を広げた。トランプ米大統領が 24 日の国連演説で中国の保護的措置を改めて批判し、「悪い取引」を拒否すると表明。さらに、米政府が中国通信機器大手の華為技術（ファーウェイ）に対する禁輸措置の猶予を一部で延長しない方針と伝わり、半導体株を中心に嫌気する売りが出た。今週は神経質な展開か。来週開催する見通しの米中閣僚協議を前に様子見気分が広がると予想する。半面、前週末終値は 11 日以来の安値水準だけに買い戻しが入りそうだ。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で 2.2%安と 6 週ぶり反落、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 2.2%安と 6 週ぶりに反落。米中貿易摩擦への警戒などを背景とした原油安とそれに伴うルーブル安がロシア株の重しとなった。週明け 23 日は景気刺激策への期待が高まる一方、原油安を受けて資源・エネルギー株が売られ、軟調な値動き。その後も米中貿易摩擦の激化懸念を背景に原油安が続き、対ドルでのルーブル安も投資家心理を悪化させた。RTS 指数は前週の 19 日から 25 日まで 5 営業日続落。26 日は米中通商協議の進展に対する期待で反発したものの、27 日は再び 0.9%安と反落し、週間ベースの下げ幅を広げた。個別銘柄では、石油のタトネフチ（6.8%安）、金融のズベルバンク優先株（2.5%安）などの下落が指数を押し下げた。今週は原油市場とルーブル相場の動向をにらみ、神経質な展開か。

▼指数チャート



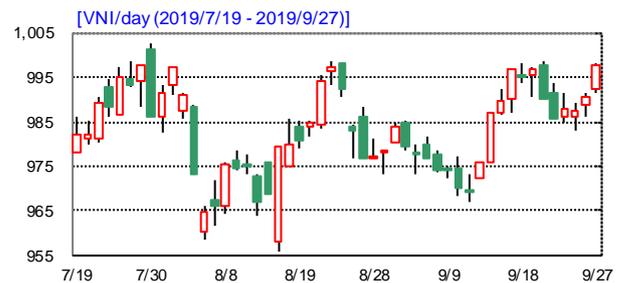
【ベトナム】 ベトナム指数は 0.8%高と 3 週続伸、今週は 1000 ポイントを試す展開

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.8%高と 3 週続伸。経済成長への期待を背景に消費関連株や金融株が上昇し、指数を押し上げた。米中通商協議の先行き不透明感から東南アジア市場の多くが軟調に推移する中、VN 指数も週明けからもみ合いが続いたが、経済成長への期待を背景に週後半に続伸し、指数は 997.84 ポイントと約 2 カ月ぶりの水準を回復した。MSCI の市場分類での「フロンティア市場」から「新興国市場」への将来的な格上げの期待も下値の支援となったもよう。個別銘柄では飲料大手のビナムミルク（6.6%高）、金融のベトコムバンク（2.3%高）、エネルギーのペトロベトナム・ガス（2.1%高）などの時価総額上位銘柄の上昇が指数を押し上げた。今週は経済成長期待を背景に指数は 3 月以来の 1000 ポイント台乗せを試す展開か。

▼指数チャート



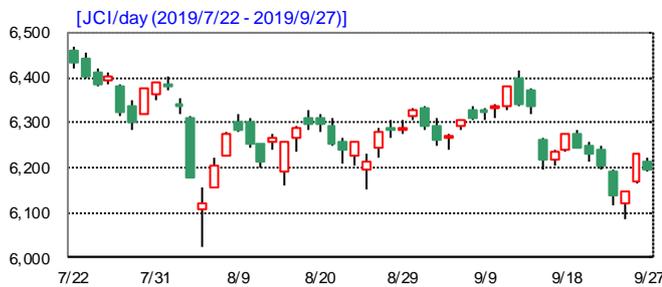


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.6%安、刑法改正案を巡り学生らがデモ

ジャカルタ総合指数は週間で 0.6%安と続落。不安定な値動きが続いた 1 週間だった。週初の 23 日は米中貿易協議の先行き不透明感から売られて 3 営業日続落。24 日は国内の景気後退懸念の広がりが嫌気され、前日比 1.1%下落した。ただ、25 日に反動で買い戻されると、26 日は刑法などの改正案を巡って週初からジャカルタを中心に学生らが実施していたデモがやや鎮静化した効果で前日比 1.4%高と続伸。一方、27 日は中国の 8 月の工業部門企業利益が前年同月比 2.0%減と低迷した影響で反落して取引を終えた。今週は 1 日に 9 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 3%台が続くとの見方が優勢。

▼指数チャート

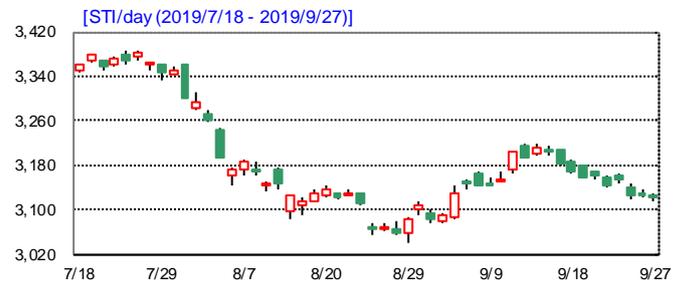


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.1%安、今週は 9 月の製造業 PMI に期待

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.1%安と続落。週初から軟調な値動きが続いた。23 日は 8 月のコアインフレの上昇率が前年同月比 0.8%と前月に続き 3 年ぶりの低い伸びとなり、金融緩和への期待が高まったものの買い材料視されず、指数は反落。24 日は反発したが、25 日はトランプ米大統領が国連総会での演説で中国を非難したことが嫌気され、終値で約 3 週間ぶりの安値を更新すると、27 日までほぼ横ばいで推移した。26 日に発表された 8 月の鉱工業生産は前年同月比 8.0%減と市場予想から下振れしている。今週は 2 日の取引終了後に 9 月の製造業 PMI が発表される予定で、前月の 49.9 を上回れば好材料。

▼指数チャート

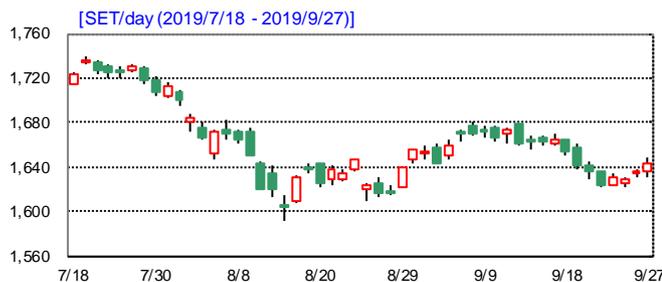


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.5%高、今週は 1 日に 9 月の CPI 発表

SET 指数は週間で 0.5%高と 3 週ぶりに反発。週後半の上昇が奏功した。週初の 23 日は中国の代表団が予定していた米国の農家視察を中断し、貿易協議進展に対する懸念が広がった影響で指数は 4 営業日続落。一方、24 日は 8 月の鉱工業生産が前年同月比 4.4%減と市場予想から下振れたものの、米国が 10 月に中国との閣僚級協議を再開する方針を明らかにしたことが好感され反発した。25 日は中央銀行が定例会合後の声明で、今年の経済成長率が従来の見通しを下回るとの見方を示した影響で反落したが、その後は買い優勢の展開となり、27 日まで続伸して引けた。今週は 1 日に 9 月の CPI が発表される予定。

▼指数チャート

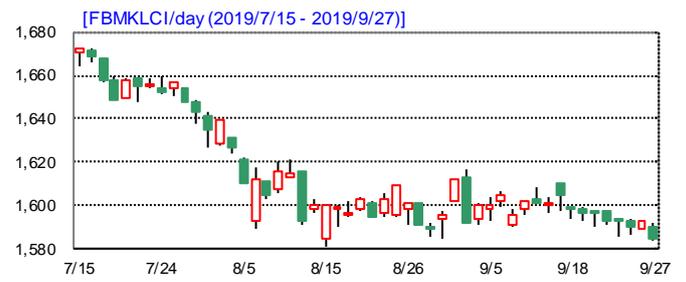


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.8%安、FTSE 世界国債インデックスへの残留決定

クアラルンプール総合指数は週間で 0.8%安と 4 週続落。買い材料に乏しく軟調な値動きだった。先週は FTSE 世界国債インデックス (WGBI) の対象国見直しを控えた様子見て週初の 23 日から 25 日まで 3 日続落。26 日は前日にトランプ米大統領が中国との貿易戦争が予想より早期に終結する可能性を示唆した効果で反発した。一方、27 日は当面の WGBI への残留が決まったものの、依然として除外検討国となっていることが嫌気され、指数は反落して引けている。今週は 4 日に 8 月の貿易統計が発表される予定。外部要因では 30 日発表の中国の 9 月の公式の製造業 PMI と財新製造業 PMI が焦点になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。